



OKINAWA

barhazuki









久米の五枝の松

下枝ど枕

思童無蔵や

我腕まくら

解説

この歌は久米島の象徴である名木久米の五枝の松を讃えた琉歌である。この松は十八世紀の初期に土帝君叢葉の神を祀った時に植えられたと伝えられている。一般にリュウキウマツは成長するに従い上方に伸び樹高は二十メートル程に達するのが普通だがこの松は根本から大きく分枝し枝はたくましく四方に伸び地面を這い緑の葉をつけている。

このような大木で独特の枝ぶりが入り口に親しまれ沖繩県の二大名松と讃えられており、果の天然記念物の指定も受けている。また日本の名松百選にも選定されている。

久米の五枝の松は下枝を枕にしてゐるが愛しい彼女は私の腕を枕に寝るのであるといふ歌意である。

この歌は琉球古典音楽の「久米はんだ前節」として三味線にのせて歌われる。























